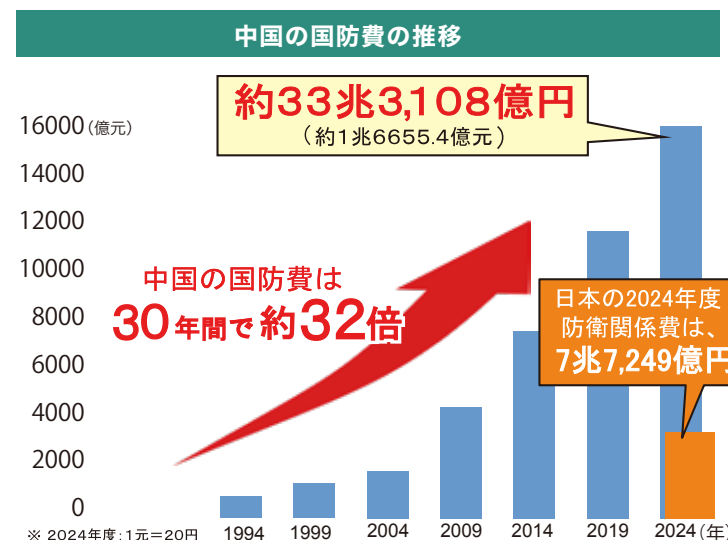


米国・豪州を訪問し、 経済安全保障・サイバーセキュリティー等を議論

本会議や委員会の開催のないゴールデンウィーク期間中は、大切な同盟国である米国と豪州を訪問し、経済安全保障やサイバーセキュリティーなどについて、米国の上下両院議員や豪州の閣僚と意見交換をしてきました。公表されている限りで中国の国防費は毎年約10%近くも増え続け、今や我が国の防衛関係費の約4.3倍に達しています。民主主義や法の支配など日本と価値観を共有する国と連携し、我が国の平和と安全を守ることも国会議員の重要な使命です。



前駐日アメリカ合衆国大使のウィリアムハガティ上院議員らと意見交換。



クレア オニール オーストラリア内務大臣・サイバーセキュリティー大臣と意見交換。

政治の信頼回復の先頭に

我が国の課題は国内外に山積しています。いわゆる「地盤なし、看板なし、カバンなし」の非世襲候補として、当時の民主党の不安定な政権運営を目の当たりにし、この国の舵取りを現実的に行いうる自民党で政治活動を始めことを決めましたが、昭和・平成の時代に自民党が作り上げてきた古い政治とは決別せねばならないとの思いを、今、強く感じています。この信念を貫き、心ある若手議員と立ち上がり、自民党の再生に取り組み、国民生活を守ることでできる誠意ある政治を取り戻します。

初代子ども家庭庁担当大臣
衆議院議員
小倉まさのぶ
2024 Vol.1

真摯に、ひたむきに。

討論資料

12回目を迎えた通常国会も、 変わらず、真摯に、ひたむきに

6月23日に通常国会が閉会しました。残念ながら、今国会は「政治とカネ」の問題一色となってしまいました。私が所属する政党の複数の派閥と議員の間で、政治資金収支報告書の長期にわたる大規模な不記載が起きてしまったことを大変申し訳なく思います。そして、本事案が、政治不信の増幅へとつながってしまったことを深くお詫び申し上げます。

言うまでもなく、政治は「信なくば立たず」です。お金の問題でひとたび疑義が生じてしまえば、その議員が何を言っても国民は信じてくれません。私が職を辞して公募候補として活動を始めたとき、旧民主党への批判も大きかったものの、「ヒューザー事件をはじめ自民党も政治とカネの問題があって信用できない」という厳しい意見も沢山いただきました。このことを原点に政治活動を始め、早くも12年が過ぎましたが、お金の使い道については、「法が許しても世間が納得できる使途であるか、身を律しながら政治活動しよう」と、事務所スタッフにも口すっぱく伝え、また自分にも言い聞かせてきました。したがって、今回の不正事案についても、私は一切関与しておりません。まずは、このことをはっきり申し上げた上で、これからもクリーンに誠実に活動することを改めて誓いたいと思います。

自分がクリーンだから良いと言うつもりはありません。党として、今後二度とこうした事案を起こさないよう、責任を果たしていかなければなりません。私は自民党の政治刷新本部の事務局長を拝命し、本年1月に「中間取りまとめ」をまとめました。これをもとに、本年3月の党大会で、派閥の解消と純粋な政策集団への移行、政治資金規制法に違反した議員への厳罰化や、いわゆる連座制の導入を自民党の党則や党規律規約等に盛り込みました。更に、法案提出者の一人として、本年6月に政治資金規制法の改正を行い、議員本人の責任の厳格化、外部監査の強化、不記載資金の国庫納付などを可能とすることで、不祥事発覚時に「秘書がやった」あるいは、「報告書を訂正しておしまい」ということが二度と起きない法律にしました。



改革をこれで終えたつもりは、毛頭ありません。前述した改革は政治不信を払拭する必要最低限のものと考えています。自民党を国民政党だともう一度信じてもらうため、どのように再生していくか、お金のかからない政治活動・選挙運動にするためには、公職選挙法等のどのような改正が必要なのか、政治資金や支出を国民に理解してもらうためには、どのような透明化が更に必要なのか、国会議員が国民の付託に応える活動をしていくためには、国会改革や政官関係の見直しをどのように進めていくのか、これらの課題に対し、若手の同志とともに、先頭に立ち不断の改革を進めてまいります。

衆院予算委員会にて、自民党の再発防止策を説明するとともに、岸田総理に法整備も含め更なる政治改革を求めました。



政治資金規正法改正案の提出者として、衆参両院の政治改革特別委員会にて答弁に立ちました。



愚直に、政策実現を継続

政治の信頼回復の道は、この国に必要な政策を真摯にひたむきに進めていくほかないと考えています。これまで注力してきた政策分野(成長戦略、金融、デジタル)に加え、昨年9月まで務めた内閣府特命担当大臣の所掌だった政策分野(少子化対策、こども政策、孤独・孤立対策、女性活躍、男女共同参画)において、党内の責任者を拝命し、孤独・孤立対策特命委員長、こども子育てDXプロジェクトチーム座長、「こども・若者」輝く未来創造本部事務局長、そして女性活躍特別委員長代理として、議論を重ねてまいりました。なかでも、3年間でこども予算を3.6兆円増やす「子ども・子育て支援法改正法」や、日本版DBSとも呼ばれる「こども性暴力防止法」の取りまとめは、報道でも大きな注目を集めました。来年度以降の予算編成方針である「骨太の方針」への反映を目指し、政府に対し、各々の提言を行いました。

「日本の大臣は一年で交代するから駄目」とよく言われます。確かに一般的には同じ議員が大臣を複数年続けたほうが良いのかもしれませんが、しかし、我が国は議院内閣制の下、大臣・副大臣・政務官経験者が党に戻り、政府で任されていた仕事と同様の会議体で役員を務めるケースがかなり多くあります。政府の政策に精通した議員が、今度は党側から自由に不足している点を後押しできるという良さもあります。

私も微力ながら大臣時代の経験を活かし、党の側から、少子化対策、こども政策、男女共同参画、孤独・孤立対策などを更に推進していきます。また、日本のデジタル化、賃金と物価の好循環の実現、資産運用立国などの政権の重要課題についても党側より後押しをしていきます。



同じ写真に見えるかもしれませんが、全て異なる政策テーマ(こども大綱、孤独・孤立対策重点計画、女性版骨太の方針、こどもDX)です。いずれも私の大臣時代の担務であり、後任の加藤内閣府特命担当大臣に政策の継続を要望しました。



金融調査会の事務総長として、事業者支援をはじめ、経済の好循環を実現する金融改革のさらなる推進政策をまとめ、岸田総理へ手交しました。



新しい資本主義実行本部 経済構造改革委員会の事務総長として、日本の成長戦略をまとめ岸田総理へ手交しました。



孤独・孤立対策特命委員会の委員長として、令和6年4月1日に施行された推進法が着実に取組まれるよう岸田総理へ提言を手交しました。



女性活躍推進特別委員会の委員長代理として、「女性版骨太の方針2024」に向けた提言を林官房長官へ手交しました。

地元町田市の発展のために

地元町田市の発展にも尽力しています。毎年、町田市と共に、国へ予算要望を行っており、こうした要望活動が、南町田グランベリーパーク駅開業の際の駅前整備事業や最新鋭のゴミ焼却施設であるバイオエネルギーセンターの開設へと結実しています。さらに現在は、弊事務所からのプッシュ型の支援を検討しており、町田市からの要望を待つことなく、市に適した予算や政策をこちらから紹介し、ともに政策を実現する取り組みです。例えば、私が大臣の時に案をまとめた「こども誰でも通園制度」のモデル事業を市内の3園で実施して頂いたり、また、市の負担なく、消防団を支援できる国の事業を紹介し、各分団・部にガンタイプノズルやLED投光器を配備することで地域防災力の強化に努めるなど、より良い町田市のために全力を尽くします。



災害発生時に市民の安全を守る、町田市・第9消防方面合同総合水防訓練に参加しました。



こやり国土交通政務官へ、鶴川駅再整備に係る事業費と成瀬・鶴見川両クリーンセンターに係る事業費を要望。令和6年度は、鶴川駅再整備に約1.9億円、クリーンセンター事業費に約13億円を国費から支出いただけることとなりました。



令和6年度町田市事業(抜粋)	国費内示／町田市要望額
学校施設整備費(空調、トイレ改修、改築など)	約1.7億円／約1.9億円
鶴川駅再整備事業	約1.9億円／約1.9億円
成瀬・鶴見川クリーンセンター改良事業	約13億円／約13.5億円
特別交付税(令和5年度)	約3.5億円 前年度比+29.5%
(町田市民病院の運営補助、交通不便地区の対策などに使用されます)	

「こども誰でも通園制度」

現行の幼児教育・保育給付とは別に、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな給付。全ての子育て家庭を対象とした保育の拡充のこと。

【本格実施に向けたスケジュール】

令和6年度
制度の本格実施を
見据えた試行的事業

- 補助基準上一人当たり「月10時間」を上限

令和7年度
法律上制度化し、
実施自治体数を拡充

- 法律の地域子ども・子育て支援事業の一つとして位置づけ

令和8年度
法律に基づく
新たな給付制度

- 全自治体で実施
- 内閣府令で定める月一定時間までの利用枠

町田市では
・子どもの森幼稚園、
・カナリヤこども園、
・高ヶ坂幼稚園 がモデル事業を実施

